

## SUN荒川ふくし塾 介護福祉士実務者養成研修(通信課程) 学則

(事業者の名称・所在地・代表者)

第1条 本研修は次の事業者が実施する。

有限会社ケア・プランニング

東京都荒川区荒川四丁目9番11号

代表者 中原 修二郎

(目的)

第2条 地域に密着した研修施設として、有能な介護人材を育成し供給を図ることにより、地域の介護人材不足の解消と介護力向上を図ることを目的とする。

(実施課程及び形式、通信の実施地域)

第3条 前条の目的を達成するために、次の研修事業(以下研修という。)を実施する。なお通信の実施地域は日本全国とする。

「介護福祉士実務者養成研修(通信課程)」

(研修の名称)

第4条 研修の名称は、次のとおりとする。

「SUN荒川ふくし塾 介護福祉士実務者養成研修(通信課程)」

(研修会場の所在地)

第5条 研修会場の所在地は、次のとおりとする。

東京都荒川区荒川五丁目1番13号 山路ビル2階 SUN荒川ふくし塾 教室

(修業年限と日程及び定員)

第5条 研修期間と日程及び定員は次のとおりとする。

(1) 修業年限: 最短6カ月以上(但し原則3年を超えることはできない)

(2) 日程

時間割は別表「時間割および授業概要」のとおり

| 通番 | 区分          | 実施期間       | 募集定員 |
|----|-------------|------------|------|
| 1  | 無資格者        | 6月4日～12月3日 | 24名  |
| 2  | ヘルパー3級課程修了者 |            |      |
| 3  | ヘルパー2級課程修了者 |            |      |

|   |             |  |  |
|---|-------------|--|--|
| 4 | ヘルパー1級課程修了者 |  |  |
| 5 | 介護職員基礎研修終了者 |  |  |

(入学者選抜の方法)

第6条 入学者選抜の方法については、次のとおり定める。

(1) 受講資格

中学校卒業程度の学力を持ち、本講座教室に通学可能な者で、介護実務の研修が可能な者。

(2) 受講申込

別紙「介護職員 実務者研修 受講申込書」のにより申し込む。

(3) 入学者選抜の方法

受講申込時、面接等により受講可能であるか判断する。

(4) 提出書類

- ①介護職員 実務者研修 受講申込書
- ②科目免除に関わる資格証および受講証明書等の写し

(研修参加費用)

第7条 研修参加費用は次のとおりとする。(金額は全て税込み。)

(1)一括払いの場合

| No. | 区分          | 受講料       | テキスト代    | 合計        |
|-----|-------------|-----------|----------|-----------|
| 1   | 無資格者        | 110,000 円 | 13,820 円 | 123,820 円 |
| 2   | ヘルパー3級修了者   |           |          |           |
| 3   | ヘルパー2級修了者   | 95,000 円  | 13,610 円 | 108,610 円 |
| 4   | 介護職員初任者研修了者 |           |          |           |
| 4   | ヘルパー1級修了者   | 20,000 円  | 12,610 円 | 32,610 円  |
| 5   | 介護職員基礎研修終了者 |           |          |           |

(2)分括払いの場合(現金納付)

| No. | 区分          | 第1回      | 第2回      | 合計        |
|-----|-------------|----------|----------|-----------|
| 1   | 無資格者        | 80,000 円 | 43,820 円 | 123,820 円 |
| 2   | ヘルパー3級修了者   |          |          |           |
| 3   | ヘルパー2級修了者   | 70,000 円 | 38,610 円 | 108,610 円 |
| 4   | 介護職員初任者研修了者 |          |          |           |
| 4   | ヘルパー1級修了者   | 該当なし     |          | 32,610 円  |
| 5   | 介護職員基礎研修終了者 |          |          |           |

(3)支払方法

指定口座への振り込みまたは、現金納付とする

(4)納付期限

- 一括納付または分割一回目:受講開始前日まで
- 分割二回目:第6回教室授業日まで

(使用教材)

第8条 研修に使用する教材は次のとおりとする。

テキスト名 「介護福祉士実務者養成研修 テキスト」

出版社名 株式会社 日本医療企画

(研修カリキュラム)

第9条 研修を修了するために履修しなければならないカリキュラムは、別表1のとおりとする。

(研修会場)

第10条 前条の研修を行うために使用する講義及び演習会場は、別表2のとおりとする。

(募集手続き)

第11条 募集手続きは次のとおりとする。

- ①当社指定の申込用紙に必要事項を記入の上、期日までに申し込む。ただし、定員に達した時点で申し込み受付は終了する。
- ②当社は、書類審査の上、受講者の決定を行い受講料振込手順書を受講者あてに通知する。
- ③受講料振込手順書を受け取った受講者は、指定の期日までに受講料等を納入する。
- ④当社は、受講料等の納入を確認した後、受講承諾証と教材を郵送する。

(科目の免除)

第12条 科目の免除については別表1のとおりとする。

(通信学習を行う地域)

第13条 通信学習を行う地域は日本全国とする。

(通信課程の実施方法)

第14条 通信課程については、次のとおり実施する。

(1)学習方法

添削課題を提出期限までに提出する。提出回ごとに採点講評を行い、担当講師と質疑応答を行う。ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。

(2)評価方法

添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性・論理性に応じて、担当講師が A、B、C、D の評価を行うこととする。なお、C 以上の評価を合格点とする。

(A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満)

(3)個別指導

合格点に達しない場合は、個別指導を実施する場合がある。

(4)質問等の対応方法

受講生の質問については、FAX(番号:03-3805-6362)又は電子メール(アドレス:info@best-kaigo.com)

でも受付け、必要に応じて担当講師に照会する。

#### (修了の認定)

第15条 修了の認定は、各科目(第9条に定める科目)の出席時間数が養成施設指定規則に定める時間数の3分の2以上の者であり、かつ、全3回の到達度評価の結果が、修了評定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。

(1)到達度評価は、原則として口答試験及び筆記試験により行う。

(2)認定基準は、次のとおりとし、理解度の高い順に、A、B、C、Dの4区分で評価した上で、C以上の評価の受講者を評価基準を満たしたものとして認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講等を行い、基準に達するまで再評価を行う。

認定基準(100点を満点とする)

A=90点以上、B=80~89点、C=70~79点、D=70点未満

#### (研修欠席者の扱い)

第16条 理由の如何にかかわらず、研修開始から10分以上遅刻した場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回分とし、3回目にあった科目を欠席とする。遅刻をし、かつ同一科目内で早退をした場合はその科目を欠席とする。また、やむを得ず欠席する場合には必ず「欠席届」を提出する。

#### (補講の取扱い)

第17条 研修の一部を欠席した者で、やむを得ない事情があると認められる者については、講義・演習総時間数の1割を上限とし、また実習は1施設を上限として補講を行うことにより当該科目を修了したものとみなす。ただし、一補講にかかる受講料については、1科目につき8,000円を受講者の負担とする。また、当補講の実施は原則として当社において実施する予定であるが、やむを得ない場合は他の事業者で実施する場合もある。その場合の受講料は、他の事業者が定める金額によることとする。

#### (受講の取消し)

第18条 次に該当する者は、受講を取消することができる。

(1)学習意欲が著しく欠け、修了の見込みが無いと認められる者

(2)研修の秩序を乱し、その他受講者としての本分に反した者

#### (研修事業の休業日)

第19条 通信課題の問い合わせなど、研修事業の休業日は土曜日・日曜日・祝日、及び年末年始(12月29日~1月3日)とする。

#### (非常災害時等の取り扱い)

第20条 非常災害その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

#### (修了証明書の交付)

第21条 第15条により修了を認定された者には、当社において東京都訪問介護員養成研修事業実施要綱8に規定する修了証明書及び修了証明書(携帯用)を交付する。

(修了者管理の方法)

第22条 修了者管理については、次により行う。

- (1) 修了者を修了者台帳に記載し、東京都が指定した様式に基づき知事に報告する。
- (2) 修了証明書の紛失等があった場合は、修了者の申し出により無料にて再発行を行う。

(研修事業執行担当部署)

第23条 本研修事業は当社事務局にて執行する。

(その他の留意事項)

第24条 研修事業の実施に当たり、次のとおり必要な措置を講ずることとする。

(1) 研修に関して下記の苦情等の窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。

苦情等の窓口: 有限会社 ケア・プランニング 事務局 電話: 03-3805-6361

相談担当: 杉浦 太亮

- (2) 事業実施により知り得た受講者等の個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用しない。
- (3) 受講者等が実習等で知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用することのないよう受講者の指導を行う。

(施行細則)

第25条 この学則に必要な細則並びにこの学則に定めのない事項で必要があると認められる時は、有限会社 ケア・プランニングがこれを定める。

(附 則)

この学則は平成27年 月 日から施行する。

| 科目                | 時間 | 教育内容   | 訪問介護員養成研修 |       |       | 介護職員<br>基礎研修<br>修了者 | 介護職員<br>初任者研<br>修修了者 | 無資格者 |
|-------------------|----|--|-----------|-------|-------|---------------------|----------------------|------|
|                   |    |  | 1級修了者     | 2級修了者 | 3級修了者 |                     |                      |      |
|                   |    |  | A         | B     | C     | D                   | E                    | F    |
| 人間の尊厳と自立          | 5  | ① 人間の尊厳と自立   |           |       |       |                     |                      | ◎    |
| 社会の理解 I           | 5  | ① 介護保険制度   |           |       |       |                     |                      | ◎    |
| 社会の理解 II          | 30 | ① 生活と福祉 ② 社会保障制度 ③ 障害者自立支援制度 ④ 介護実践に関する諸制度   |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 介護の基本 I           | 10 | ① 介護福祉士制度 ② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③ 介護福祉士の倫理   |           |       | ◎     |                     |                      | ◎    |
| 介護の基本 II          | 20 | ① 介護を必要とする人の生活の理解と支援 ② 介護実践における連携 ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント ④ 介護福祉士の安全   | ◎         |       | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| コミュニケーション技術       | 20 | ① 介護におけるコミュニケーション技術 ② 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ③ 介護におけるチームのコミュニケーション  |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 生活支援技術 I          | 20 | ① 生活支援とICF ② ボディメカニクスの活用 ③ 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ④ 環境整備、福祉用具活用等の視点                                 |           |       |       |                     |                      | ◎    |
| 生活支援技術 II         | 30 | ① 利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末の介護   |           |       | ◎     |                     |                      | ◎    |
| 介護過程 I            | 20 | ① 介護過程の基礎的知識 ② 介護過程の展開 ③ 介護過程とチームアプローチ   |           |       | ◎     |                     |                      | ◎    |
| 介護過程 II           | 25 | ① 介護過程の展開の実際・利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について・観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。                              |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 介護過程 III (スクーリング) | 45 | ① 介護過程の展開の実際・多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。② 介護技術の評価・介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。 | ◎         | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 発達と老化の理解 I        | 10 | ① 老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ② 老化に伴うからだの変化と日常生活への影響  |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 発達と老化の理解 II       | 20 | ① 人間の成長・発達 ② 老年期の発達・成熟と心理 ③ 高齢者に多い症状・疾病等と留意点   |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 認知症の理解 I          | 10 | ① 認知症ケアの理念 ② 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③ 認知症の人とのかかわり・支援の基本   |           | ◎     | ◎     |                     |                      | ◎    |
| 認知症の理解 II         | 20 | ① 医学的側面から見た認知症の理解 ② 認知症の人や家族への支援の実際  |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 障害の理解 I           | 10 | ① 障害者福祉の理念 ② 障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③ 障害児者や家族へのかかわり・支援の基本  |           | ◎     | ◎     |                     |                      | ◎    |
| 障害の理解 II          | 20 | ① 医学的側面からみた障害の理解 ② 障害児者への支援の実際   |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| こころとからだのしくみ I     | 20 | ① 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)   |           |       | ◎     |                     |                      | ◎    |
| こころとからだのしくみ II    | 60 | ① 人間の心理 ② 人体の構造と機能 ③ 身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護          |           | ◎     | ◎     |                     | ◎                    | ◎    |
| 医療的ケア             | 50 | ① 医療的ケア実施の基礎 ② 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③ 経管栄養(基礎的知識・実施手順) ④ 演習  | ◎         | ◎     | ◎     | ◎                   | ◎                    | ◎    |

|       |     |  |    |     |     |    |     |     |
|-------|-----|--|----|-----|-----|----|-----|-----|
| 受講時間計 | 450 |  | 95 | 320 | 420 | 50 | 320 | 450 |
|-------|-----|--|----|-----|-----|----|-----|-----|

# 授 業 概 要

|   |   |   |       |
|---|---|---|-------|
| 授業のタイトル (科目名)   | 授業の種類   |   | 授業担当者 |
| 介護過程Ⅲ   | (通信課題 <span style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px;">講義</span> <span style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 2px;">演習</span> 実習) |   | 本多    |
| 授業の回数   | 時間数(単位数)  | 配当学年・時期   | 必修・選択 |
| 7回 (日)  | 47  | \   | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を身につける。</p> <p>②介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>前半で介護過程の事例検討をさまざまな事例を用いて演習する。後半はシチュエーションや要介護者の状態に応じた実技事例を演習する。実技演習については毎回の授業で技術の見極めを行う。また、介護福祉士の試験の対応を必要に応じて行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。</li> <li>○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、体系的な介護 (アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等) を提供できる。</li> <li>○ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</li> <li>○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul> |   |   |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>教室授業 日数</p> <p style="padding-left: 20px;">9/24 介護過程の事例検討 1・2</p> <p style="padding-left: 20px;">10/1 介護過程の事例検討 3・4</p> <p style="padding-left: 20px;">10/8 介護過程の事例検討 5・介護福祉士実技試験対策</p> <p style="padding-left: 20px;">10/15 実技事例演習 1・2</p> <p style="padding-left: 20px;">10/22 実技事例演習 3・4</p> <p style="padding-left: 20px;">10/29 実技事例演習 5・6</p> <p style="padding-left: 20px;">11/5 実技の基本復習 1・2</p>  |   |   |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>実務者研修テキスト第4巻・5巻</p>   |   | <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>毎回の授業で介護技術の見極めを行う。また、修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |

# 授 業 概 要

|   |                       |  |       |
|---|-----------------------|--|-------|
| 授業のタイトル（科目名）  | 授業の種類                 |  | 授業担当者 |
| 医療的ケア   | (通信課題) (講義) (演習) (実習) |  | 二本柳   |
| 授業の回数   | 時間数(単位数)              | 配当学年・時期  | 必修・選択 |
| 2回（日）   | 65                    | /  | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>介護職に可能な医療的ケアについての基礎を学び、今後実習によって実務が行えるように準備する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>① 医療的ケア実施の基礎 ② 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） ③ 経管栄養（基礎的知識・実施手順） ④ 演習</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]<br/>○ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>  |                       |  |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>通信講座（50H）<br/>人間と社会 1.5H、保健医療制度とチーム医療 2H、安全な療養生活 4H、清潔保持と感染予防 2.5H、健康状態の把握 3H、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 11H、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 8H、高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 10H、高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説 8H</p> <p>教室授業（15H）<br/>11/19 医療的ケアの心得・演習準備（機器の使用方法等）・痰の吸引演習 1～4<br/>11/26 救急蘇生法演習 1・2、経管栄養演習 1～4</p> |                       |  |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]<br/>実務者研修テキスト第8巻</p>   |                       | <p>[単位認定の方法及び基準]<br/>（試験やレポートの評価基準など）<br/>毎回の授業で医療技術の見極めを行うまた、修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |







## 授 業 概 要

| 授業のタイトル (科目名)  | 授業の種類             |   | 授業担当者 |
|--|-------------------|---|-------|
| 介護の基本 I  | (通信課題) 講義 演習 実習 ) |   | 杉浦    |
| 授業の回数  | 時間数(単位数)          | 配当学年・時期   | 必修・選択 |
| 通信   | 10                |   | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>介護の基本理念と介護福祉士の役割について学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>① 介護福祉士制度 ② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③ 介護福祉士の倫理</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]<br/>○ 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。<br/>○ 個別ケア、ICF (国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。<br/>○ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</p> |                   |   |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>通信講座 10 H 課題添削</p> <p>① 介護福祉士制度(3H) ② 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開(4H) ③ 介護福祉士の倫理(3H)</p>  |                   |   |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]<br/>実務者研修テキスト第2巻</p>  |                   | <p>[単位認定の方法及び基準]<br/>修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |





## 授 業 概 要

|  |                 |   |       |
|--|-----------------|---|-------|
| 授業のタイトル (科目名)  | 授業の種類           |   | 授業担当者 |
| 生活支援技術 I   | 通信課題 講義 演習 実習 ) |   | 本多    |
| 授業の回数  | 時間数(単位数)        | 配当学年・時期   | 必修・選択 |
| 通信   | 20              |   | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>介護技術の基本を修得する</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>① 生活支援とICF ② ボディメカニクスの活用 ③ 介護技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ④ 環境整備、福祉用具活用等の視点</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]<br/>○ 生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。<br/>○ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。<br/>○ 介護技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) を修得している。<br/>○ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p> |                 |   |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>通信講座 20 H 課題添削</p> <p>① 生活支援とICF(2H) ② ボディメカニクスの活用(3H) ③ 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)(13H) ④ 環境整備、福祉用具活用等の視点(2H)</p>   |                 |   |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]<br/>実務者研修テキスト第4巻</p>  |                 | <p>[単位認定の方法及び基準]<br/>修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |





## 授 業 概 要

| 授業のタイトル (科目名)  | 授業の種類            |   | 授業担当者 |
|--|------------------|---|-------|
| 介護過程Ⅱ  | (通信課題) 講義 演習 実習) |   | 本多    |
| 授業の回数  | 時間数(単位数)         | 配当学年・時期   | 必修・選択 |
| 通信   | 25               |   | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>介護過程の応用について学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>① 介護過程の展開の実際・利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について・観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br/>○ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p> |                  |   |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>通信講座 25 H 課題添削</p> <p>① 介護過程の展開の実際・利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について・観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。(25H)</p>  |                  |   |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]<br/>実務者研修テキスト第5巻</p>  |                  | <p>[単位認定の方法及び基準]<br/>修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |



## 授 業 概 要

| 授業のタイトル（科目名）   | 授業の種類           |   | 授業担当者 |
|--|-----------------|---|-------|
| 発達と老化の理解Ⅱ  | 通信課題 講義 演習 実習 ) |   | 茂木    |
| 授業の回数  | 時間数(単位数)        | 配当学年・時期   | 必修・選択 |
| 通信   | 20              |   | 必須    |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>老化について具体的な問題を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>① 人間の成長・発達 ② 老年期の発達・成熟と心理 ③ 高齢者に多い症状・疾病等と留意点</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]<br/>○発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。<br/>○老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。<br/>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p> |                 |   |       |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>通信講座 20 H 課題添削</p> <p>① 人間の成長・発達(7H) ② 老年期の発達・成熟と心理(7H) ③ 高齢者に多い症状・疾病等と留意点(6H)</p>  |                 |   |       |
| <p>[使用テキスト・参考文献]<br/>実務者研修テキスト第6巻</p>  |                 | <p>[単位認定の方法及び基準]<br/>修了前に到達度評価の筆記試験を行い基準に達した者を認定とする</p> |       |









